

「超」高齢社会をどう迎えるか？ －「2050研究会」から地域社会と生協への提言－

2050 年における日本の「確かな未来」を現在の時点と比較してみよう。1.27 億の総人口が 1 億人を割り込む。70 歳以上のいまの人口は総人口の 5～6 人に 1 人であるが、2050 年にはほぼ 3 人に 1 人が 70 歳以上になる。1 年間に生まれる子どもの数よりも百寿者が上まわる。人口の中位年齢は 47 歳から 2050 年には 56 歳となる。単身世帯数は約 10 分の 3 から 10 分の 4 に増える。

将来の年齢構成をみると必然的に「大介護」の時代となる。とはいえ明るい展望として、70 歳代でも 10 人に 9 人が「自立して生活できる元気な高齢者」になると想定されるのが 2050 年である。少子、「超」高齢、人口減少、単身、元気な高齢者、これらが 2050 年への確実な潮流である。くらしと地域が変わるこの未来に向けて、私たちはどのように創造的に適応していくのか。

2050 研究会の提言をもとに、『2050 年 超高齢社会のコミュニティ構想』（岩波書店）が 8 月 25 日に刊行される。本書では、これから私たちが取り組むべき具体的プランを提示している。なお、本書は当日資料として全ての参加者に配布される。是非とも、ご参加いただきたい。

日時：2015年 9月26日（土）10：00～16：20

会場：明治大学駿河台キャンパス リバティタワー1F リバティホール

（東京都千代田区神田駿河台 1-1 最寄駅：御茶ノ水駅、新御茶ノ水駅、神保町駅）

■ プログラム

- 10：00～10：05 開会挨拶 生源寺眞一（生協総研 理事長）
- 10：05～10：50 講演①「提言の総括報告」 若林靖永
- 10：50～11：25 講演②「単身社会のゆくえと親密圏の再構築」 宮本みち子
- 11：25～11：55 事例報告①『「柏プロジェクト」活動報告』前田展弘

昼食休憩（リバティタワー17階）

- 12：55～13：05 2050 研究会委員からのビデオメッセージ 樋口恵子
- 13：05～13：35 事例報告②「たまり場『ひだまり』活動報告」小森佳子
- 13：40～14：40 パネルディスカッション①「若者が大いに語る未来」

20代、30代の若手が、自らが高齢者となる35年後までの社会や生協に希望がもてるのか、どんな人生展望があるかを大いに語る。大学生協や地域生協のリサーチ経験のある明治学院大学の米澤旦氏、生協職員、マスメディアで活躍する人々が登壇。（ファシリテーター：生協総研 近本）

休 憩

- 14：55～16：15 パネルディスカッション②『「2050年 超高齢社会のコミュニティ構想」の著者たちが大いに語る未来』

司会：若林靖永

パネリスト：宮本みち子、松田妙子、前田展弘、白鳥和生、藤井晴夫

- 16：15～16：20 閉会挨拶 小方 泰（生協総研 専務理事）
- 16：30～17：30 懇親会（リバティタワー17階）

若林 靖永（京都大学経営管理大学院 教授、京都大学大学院経済学研究科 教授）

1961年生 京都大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学、博士（経済学）

著書に『顧客志向のマス・マーケティング』（同文館、2003年）、共著に『現代生協論の探求（理論編）』（コープ出版、2010年）、『流通動態と消費者の時代』（白桃書房、2013年）ほか

宮本 みち子（放送大学 副学長）

1947年生 お茶の水女子大学家政学研究科修士課程修了、千葉大学名誉教授、社会学博士

著書に『若者が無縁化する』（ちくま新書、2012年）、『生活保障の戦略』（岩波書店、2013年）、『若者が《社会的弱者》に転落する』（洋泉社、2002年）、ほか

前田 展弘（株式会社ニッセイ基礎研究所 生活研究部主任研究員兼東京大学高齢社会総合研究機構 客員研究員）

1971年生 早稲田大学商学部卒、日本大学大学院グローバルビジネス研究科修了

共著に『持続可能な高齢社会を考える』（中央経済社、2014年）ほか

樋口 恵子（NPO法人高齢社会をよくする女性の会 理事長）

1932年生 東京大学文学部卒、東京大学新聞研究所本科修了

著書に『女一生の働き方（BBからHBへ）』（海竜社、2010年）、『大介護時代を生きる』（中央法規、2012年）、『おひとりシニアのよろず人生相談』（主婦の友社、2014年）、『人生100年時代への船出』（ミネルヴァ書房、2013年）、ほか

小森 佳子（ヘルスコープおおさか 常務理事）

1943年生 大阪市立東商業高等学校卒

1996年 医療生活協同組合 赤川診療所に入職 診療所事務長を経て法人理事に就任 1983年 老後の幸福を進める会、1990年 特別養護老人ホームをつくる会を結成 1992年 ボランティアサークル「微助人（びすけっと）」発足 2012年 たまり場「ひだまり」「よってこ」をオープン

松田 妙子（NPO法人せたがや子育てネット 代表理事）

1969年生 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒

共著に『よくわかる子育て支援・家族援助論』（ミネルヴァ書房、2008年）『早わかり 子ども子育て支援新制度-現場はどう変わるのか』（ぎょうせい、2015年）、ほか

白鳥 和生（日本経済新聞社 編集局調査部）

1967年生 明治学院大学国際学部卒

共著に『売れる「仕掛け」をつくれ!』（日本経済新聞社、2004年）、『ようこそ小売業の世界へ』（商業界、2015年）。論説に「変化の兆しを見せる『今どきの若者消費』』『生活協同組合研究』2014年10月、ほか

藤井 晴夫（生協総合研究所 研究員）

1948年生 東京水産大学（現東京海洋大学）卒

共著に『危機に立ち向かうヨーロッパの生協に学ぶ』（コープ出版、2010年）、『生活協同組合研究』誌に欧州主要生協の経営分析論説などの執筆多数

■ 研究集会参加費

参加費には『2050年 超高齢社会のコミュニティ構想』（岩波書店 税込 1,836円）と昼食代を含みます。

- | | |
|----------------------------|--------|
| A. 生協総合研究所の会員（団体会員の役職員を含む） | 4,000円 |
| B. 一般（生協総合研究所の会員でない方） | 8,000円 |
| C. 学生、大学院生 | 2,000円 |

※ 参加申込の際、昼食は以下のどちらかを必ずお選びください。

- ① 弁当（予約制です。お待ちいただく時間を短縮するために用意しました。）
- ② 食券（メニューを選択できます。お待ちいただくことがあります。）

■ 懇親会(16:30~17:30 17階・会場)

終了後の情報交換の場として、どうぞご活用ください。軽い食べものと飲みものをお出しします。なお参加される方は、懇親会費として一律1人1,000円をお願い致します。準備の都合上、下記の申し込み締め切りまでにお申し込みください。

■ 申込方法

別紙「参加申込書」に必要事項を記入してお送りください。

同時に参加費用の振込みをお願いします（振込手数料は各自でご負担ください）。

振込口座

口座名：ザイ）セイキョウソウゴウケンキュウシヨ		
中央労働金庫	本店営業部	（普通）5187368
三菱東京UFJ銀行	麹町支店	（普通）5077447
郵便振替	00110-9-535484	

■ お申し込み

- ① 次ページの書式にご記入いただき、FAXでご送付下さい。
- ② E-mail：ccij@jccu.coop へ次ページの様式に準じてご記入し、お申し込み下さい。
- ③ 郵送：〒102-0085 東京都千代田区六番町15番地 プラザエフ6階
公益財団法人 生協総合研究所

■ 申込締切

2015年9月18日（金） 先着250名

■ キャンセル料金

キャンセルの場合は、下記の料金がかかります。連絡なしに欠席された場合も請求させていただきますので、お早めに連絡いただくか、代理の方の参加をお願いします。

開催日前々日（9月24日）まで……………無料

開催日前日・当日（9月25・26日）……………〔参加費〕の全額

■ お問い合わせ

公益財団法人 生協総合研究所 中村・遠藤・茂木

TEL: 03-5216-6025 FAX: 03-5216-6030 E-mail: ccij@jccu.coop

生協総合研究所 第25回全国研究集会
参加申込書（参加受付書を兼ねています）

申込日 2015年 月 日

所属団体名					
担当部署		フリガナ 担当者名			
住 所	〒				
TEL		FAX			
E-mail					
参加者氏名	役職名・所属名	参加申込内容 (下記3つに○をつけ、費用をご記入下さい)			
		参加者区分	昼食	懇親会	参加費+懇親会費
		A B C	弁当 食券	参 加 不参加	円
		A B C	弁当 食券	参 加 不参加	円
		A B C	弁当 食券	参 加 不参加	円
		A B C	弁当 食券	参 加 不参加	円
		A B C	弁当 食券	参 加 不参加	円
参加者合計	名	参加費・懇親会費総計			円

参加者区分と参加費（『2050年 超高齢社会のコミュニティ構想』と昼食代を含みます）

A：生協総合研究所会員（団体会員の役職員を含む） 4,000円

B：一般（生協総合研究所会員以外の方） 8,000円

C：学生、大学院生 2,000円

懇親会参加費（16：30～17：30） 1,000円

9月18日（金）までにお申し込みください。受付後5日以内にFAX、E-mail、郵送のいずれかにて参加受付書を返送しますので、必要事項のご記入漏れがないようお願い致します。

【事務局使用欄】 2015年 月 日 参加を受付いたしました。担当_____